

明石市立大蔵中学校だより「2019年12月2日（第31号）」

書あり 師あり 友ありて



「あかしヒューマンフェスタ」で本校生徒が朗読発表しました

学校長 平田 高之

国際連合は、1948年（昭和23年）12月10日に「世界人権宣言」を採択し、この日を「人権デー」と決めました。日本では、この日を最終日とする12月4日から10日を「人権週間」と定め、各地で人権尊重思想の普及高揚のためのさまざまな取り組みが行われています。明石市では、この人権週間の取り組みとして「あかしヒューマンフェスタ」が、11月29日に明石市民会館中ホールで開催され、その中で、「第32回 明石市人権啓発作品」の表彰がありました。

「学校だより第22号」で本校の「人権作文発表会」について紹介させていただきましたが、市内多数の応募作品の中から、本校生徒が、作文部門で、優秀賞3名のうち2名、入選3名のうち1名、また、詩部門でも、優秀賞2名のうち1名が選ばれました。

- 作文部門 優秀賞「一人一人が生む差別」 1年5組
- 優秀賞「障害と現実」 3年3組
- 入選「ぼく」 のぞみ学級
- 詩部門 優秀賞「教室」 1年2組



特に、作文部門の二人は、市長から直接表彰を受け、朗読発表もしました。内容の素晴らしさはもちろんですが、学校の体育館とは違う市民会館中ホールで、しかも、一般の観衆の前で、堂々と読み上げてくれました。



嬉しかったこと4 ～ 人権講演会から ～

今回の「嬉しかったこと」は、11月26日（火）に行われた人権講演会での出来事です。今回は、「被爆ピアノコンサート」ということで、広島で原爆投下の際に、被爆したピアノを修復した□□□□（矢川ピアノ工房代表取締役）が、平和の大切さを訴えるために自らトラックを運転し、北は北海道から南は沖縄まで全国各地で行われている活動（ご自身は「平和の種まき」と仰っていました。）についてのお話と、そのピアノを使ったピアニストの演奏とソプラノ歌手の歌声を聞かせてもらいました。被爆ピアノに寄せた平和への思いや、ピアノの音色、さらに朗読や平和や命の大切さを訴える心に響く歌声に、生徒たちが平和の大切さについて考えることができる内容でした。

講演会後に、演奏して頂いたお二人と校長室でお話をさせて頂いたのですが、「大蔵中学校の生徒さんは、体育館へ移動する際にも私語なく整然としているところ、さらに講演会中の聴く姿勢の良さは、全国多くの学校に行かせて頂いていますが、これだけの学校はなかなかありません。演奏する側としても、とても演奏しやすく、さらに気持ちを込めることができました。」とお話して頂きました。

さらに、生徒会長が、11月24日に広島を訪れられたローマ法王の話も含めた平和への力強い決意とお礼のあいさつにも、その素晴らしさに驚いておられました。私も本当にすごいなあと感じました。

なお、矢川さんをモデルとして映画化された「おかあさんの被爆ピアノ」が来年公開されるそうです。ご興味のある方は是非映画館に足をお運び下さい。

自分の学校の生徒が褒められるのは本当に嬉しいことです。講演・演奏内容と合わせ、とても有意義な時間を過ごすことができたと感じています。簡単なようで難しいのですが、今後も「当たり前」のことが当たり前になるまで学校づくりに努めてまいります。



台風19号の被災者支援募金を生徒会役員で寄託してきました

台風19号で被災された方を支援するために、生徒会が募金を呼び掛けていました。10月中旬から2週間、毎朝、校門でのあいさつ運動の際に寄付を呼びかけ、市民会館での文化発表会においては、保護者の皆さまにもお願いしました。

計2万8728円集まり、11月22日に□□□□、□□□□□□□□が、神戸新聞明石総局を訪れ寄託してきました。ご協力ありがとうございました。



B1 グランプリにボランティアとして参加

11月23・24日にB1 グランプリが明石市で行われましたが、本校生徒もボランティアとして参加してくれました。お疲れさまでした。

また、人丸小学校6年生が作成した出展団体ののぼりもとても良かったですね。

市役所担当の方から、大蔵中生のボランティア活動中のまじめさに、お褒めと感謝の言葉がありました。

